

議会報告会実施報告書

開催日時	令和3年11月11日 午後2時～3時30分	開催 会場	フレビア研修室
参加者数	17人		
実施内容	「外国籍市民への行政情報の伝達について」、 「外国籍の子ども達の就学状況について」をテーマとした意見交換		
質疑および 主な意見等	<p><Aグループ> 「外国籍市民への行政情報の伝達について」 意見1</p> <p>○ホームページやSNSにおいて、新型コロナウイルス感染症のチラシなどは多言語化されて発信されるが、ごみのカレンダーや地域の自治会の話などポルトガル語版などが無い。外国籍市民はインターネットで情報を得ることが圧倒的に多いが、コミュニティの中で情報交換・入手するため、間違った情報なども拡散しやすい。</p> <p>(※ホームページには賃貸住宅管理者向けにポルトガル語・英語・中国語・フィリピン語版を作成している旨の掲載あり。ただし掲載はしていない。)</p> <p>派遣会社としてもごみの分別等まとめたものを渡している。ごみ関係の情報を最も伝えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように周知すればよいか。 <p>→市役所で勉強会などを開催する。その他にも基本的なことで困っている外国籍市民がいる。</p> <p>→外国籍市民の数が多く、時間をとって開催するのは難しい。集まってもらうのも難しいので派遣会社なりを頼らざるを得ない状況。他県・他市から転入してくる方にそれぞれの地域でルールが違うということへの理解や、そもそものルールが複雑化していることも問題。</p> <p>○防災について、情報の収集方法が理解されていない。基本的な避難訓練や消火訓練をやっていない。情報を拡散させる仕組みと拡散させる場所(ツール)を増やしていくことが必要。</p> <p>→外国籍市民がみんなスマートフォンを持っているわけではない。持っても電話番号がない情報通信機器として利用しているケースも多い。そういう方については無料Wi-Fiを利用するので、無料Wi-Fiが使える場所を増やすのも、災害情報を入手する手段になるのではないかと。</p> <p>○その他</p> <p>様々な困りごとが出てきており、相談内容も多種多様となってきているので相談窓口の充実が望まれるが、マンパワーが不足しているのが現状。</p>		

<Bグループ>

「外国籍の子ども達の就学状況について」

主な意見や質問など

○ばら教室での保護者への伝達方法が困難である。親は夜遅くまで働き、職員が電話をしても繋がらないことが多い。例えば鉛筆けずりの話し1つでも時間がかかる。

- ・ Facebook などの SNS の活用は？
- ・ 学校と同じ決まりの中で運営していて、SNS で保護者と個人的なやりとりは禁止されている。
- ・ 日本に来たばかりの方はそもそも携帯やスマホを持っていないケースも多い。

○子ども達のアイデンティティ形成や日本語教育をスムーズに進めるためにも母国語の習得は重要である。もちろん日本で生活する上で日本語の習得は必要だが、小学校低学年頃はまだ母国語も不安定な状態。まずは母国語を習得することで、日本語での授業の理解も早まる。

- ・ 今はグーグルの翻訳機能を使うなど、先生も工夫して授業を行っている。現在タブレット授業の取り組みも進んできているので、タブレットで日本の教科書が母語に訳されたものが見れるようになるとうい。

○通訳さんは市の窓口や国際交流協会、各学校などで活躍していただいております。通訳さんがいないと何も進まないほど重要な役割を果たしている。通訳さんの確保と賃金アップを切に市に求める。

- ・ 小中学校では、日本人の児童生徒と同じく外国籍の子ども発達障害の子どもは年々増えている。結局頼りになるのは通訳さんである。

○外国籍市民が住んでいる地域は以前は土田、今渡に集中していたが、現在は川合、中恵土、広見、平牧、帷子地区など全体に広がり始めている。その中には遠くてばら教室に通えないという子どもも出てきている。教育を受ける権利の公平性のためにも市議会でも議論してほしい。

- ・ 不動産屋が団地の空き家をリフォームして外国籍市民が住むというケースも増えてきているようである。
- ・ 緑ヶ丘や大森から土田までは自転車でもとても子どもは通えない、親の送迎は働いている時間帯が合わず困難。

○行政や国際交流協会の対応だけでは限界がある。色々な地域で課題を共有したい。活動を広げる体制づくりを市議会にも協力いただきたい。

○県立の夜間中学をぜひ設立してほしい。(できれば可児市に)

- ・ 先生は県の職員なので、県立がのぞましい。

令和3年12月10日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

建設市民委員会 委員長 中村 悟